

平成 25 年度

運営に関する

計画・自己評価書

年度末評価

大阪市立大淀中学校

目 次

- P 1 … 総括シート1 中期目標
- P 2～ … 総括シート2 年度目標と総括
- P 4～ … 目標別シート1 【視点 学力の向上】
- P 8～ … 目標別シート2 【視点 道徳心・社会性の育成】
- P 12～ … 目標別シート3 【視点 健康・体力の保持増進】

総括シート1 中期目標

大阪市立大淀中学校

1. 学校運営の中期目標

【視点 学力の向上】

○平成27年度学校評価アンケートにおける「学習の仕方を工夫したり、わかりやすい学習に取り組むなど、授業を改善する工夫を行っている。」の数値を70%に向上させる。(カリキュラム改革関連)

○平成27年度学校評価アンケートにおける「自分が努力した過程や結果が適切に評価されている。」の「よく」を10%向上させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

○平成27年度学校評価アンケートにおける「学校は、地域のボランティアを活用するなど外部の人材を活用している。」の数値を10%向上させる。(ガバナンス改革関連)

○平成27年度全国・学力学習状況調査における「将来の夢や目標を持っている。」の数値を70%に向上させる。(カリキュラム改革関連)

○平成27年度学校評価アンケートにおける「学校のきまりや社会のルールを守っている。」の「よく」を10%向上させる。(マネジメント改革関連)

○平成27年度学校評価アンケートにおける「自分の考えや意見を自分の言葉で発表している。」の数値を10%向上させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】□

○平成27年度「全国体力・運動能力、運動習慣調査」において、特に課題である「長座体前屈」の記録を、平成24年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)

○平成27年度学校評価アンケートにおける「自分の健康に気をつけている。」の「よく」と答えた数値を10%向上させる。(カリキュラム改革関連)

総括シート2 年度目標

大阪市立大淀中学校

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

○平成25年度学校評価アンケートにおける「学習の仕方を工夫したり、わかりやすい学習に取り組むなど、授業を改善する工夫を行っている。」の数値を65%に向上させる。(カリキュラム改革関連)

○平成25年度学校評価アンケートにおける「自分が努力した過程や結果が適切に評価されている。」の「よく」を5%向上させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

○平成25年度学校評価アンケートにおける「学校は、地域のボランティアを活用するなど、外部の人材を活用している。」数値を5%向上させる。(ガバナンス改革関連)

○平成25年度学校評価アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えている。」の数値を70%に向上させる。(カリキュラム改革関連)

○平成25年度学校評価アンケートにおける「学校のきまりや社会のルールを守っている。」の「よく」を5%向上させる。(マネジメント改革関連)

○平成25年度学校評価アンケートにおける「自分の考え方や意見を自分の言葉で発表している。」の数値を5%向上させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

○平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「長座体前屈」の記録を、平成24年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)

○平成25年度学校評価アンケートにおける「自分の健康に気をつけている。」の「よく」と答えた数値を5%向上させる。(カリキュラム改革関連)

3. 本年度の自己評価結果(年度末)の総括

本校では、これまでの保護者及び生徒を対象とした学校評価アンケート調査結果の分析を踏まえ、今年度から「大淀中学校 学校教育改善 アクションプラン」を策定し、教育活動の向上をめざし取り組みを進めてきた。アクションプランでは、一つ目の柱を「わかる授業の創造とできる学力の定着」とし、サブテーマを「自立的に学習する生徒像」、「生徒の学び方」とし、二つ目の柱を「行きたい学校、行かせたい学校づくり」とし、サブテーマを「地域の特色を生かした開かれた学校」として、それぞれの取り組み内容を示して教育活動の改善に努めてきた。

この「大淀中学校 学校教育改善 アクションプラン」を基盤とした教育活動全般にわたる取り組みの評価については、今年度「運営に関する計画」を策定し、中期目標及び中期目標達成に向けた年度目標に数値目標を設定して取り組みを進めてきた。数値目標は、昨年度の結果を基準にしているが、ここ最近、生徒や保護者を対象とした授業アンケート、学校評価アンケート及び様々な意識・実態調査等が多数行われてきていることから、回答にあたって精査が加わり、数値としてはこれまでよりも厳しい内容となってきたと考える。また、年度目標として数値を設定したアンケート項目の中には、各分野で指標を定め、取り組んだ成果が、直接数値に反映しにくい内容もある。

最終評価にあたっては、上記のことを踏まえ、アンケートの数値のみによらず、多角的な視点で現状認識し、総合的に評価を行った。今年度の自己評価を総括すると、すべての項目にわたって当初の目標を概ね達成できたと評価する。

目標別シート1-1【視点 学力の向上】 教科（国語～音楽）

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかつた

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかつた

年 度 目 標	達成 状況
○平成25年度学校評価アンケートにおける「学習の仕方を工夫したり、わかりやすい学習に取り組むなど、授業を改善する工夫を行っている。」の数値を65%に向上させる。(カリキュラム改革関連)	B

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			達成 状況
取組① 【区分 国 語 科】 漢字・文法の分野を少人数で授業することで、生徒の理解を深める。	指標 定期テスト・小テストでの平均正答率を分析する。	結果と分析 書き取りの時間を増やし、宿題等で繰り返し取り組ませることによって、得点に結びつく生徒の数が増えた。	B
今後の改善点 成果が目に見えたことで、自主的な学習が習慣化するよう、継続して指導していく。	取組② 【区分 社 会 科】 T.T.を通じて生徒の理解を深める。	指標 単元課題を与えて提出させ、生徒の理解の深化を確認する。	B
結果と分析 すべての単元でプリントによる作業や点検を通じて確認させた。ほぼ全員の提出を見ることができた。複数の担当教師の発案や作成の授業方法も考えだされ実践に活かされた。	今後の改善点 教材観や指導観の共通認識を深めるために打ち合わせの時間を増やし、さらに工夫された指導を作り上げたい。	取組③ 【区分 数 学 科】 習熟度別授業を中心として、わからないところをすぐに質問できる態勢づくりをすすめる。	B
指標 わからないことを先生に質問できているかを、生徒アンケートを実施し、把握する。	結果と分析 アンケート結果により、6割以上の生徒がわからないことを質問できていると回答している。	今後の改善点 質問していない割合を下げられるよう、きめ細かい指導を目指す。また質問と解説を通して数学的言語活動を進めていきたい。	B
取組④ 【区分 理 科】 観察・実験を多く行うことができるようとする。	指標 観察・実験を工夫し、週1回行う。	結果と分析 各学年の実験曜日を設定することで、特別行事やテスト等で実施ができない期間を除くと、週1回の観察・実験の実施はおおむね達成できた。	B
今後の改善点 気象、天文のような観察・実験の設定が少ない分野についても、生徒が本質的な科学的体験をとのできる教材を開発したい。	取組⑤ 【区分 音 楽 科】 目標設定をし、それが達成できるようにし、音楽を楽しむ力を持つ。	指標 目標設定の自己評価が「できた、ややできた」で60%、「音楽の力がついた」を50%とする。	B
結果と分析 目標達成カードへの回答は毎回9割程が「できた・ややできた」だが、「音楽の力がついたか」と質問すると具体的な返答が少なかった。	今後の改善点 目標を設定した際、「楽譜の内容を守り、演奏する。(音符や休符の理解)」など、どんな力が必要なのかを囁み碎いて提示し、具体的にできた実感に繋げる。		

目標別シート1-1【視点 学力の向上】 教科（美術～特別支援教育）

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			達成状況	
取組⑥	【区分 美術科】	創造性を育む造形体験の充実を図るために、教科書以外に自主作成教材や視聴覚教材を使って指導する。		
指標	作品の完成に向けてきめ細やかな指導を行い、個別ノートの点検を実施する。			
結果と分析	各学年とも毎回の授業での机間巡視、言葉かけ、個別指導の徹底により、作品の未完成者はほぼいない。個別ノート点検による生徒の理解力や到達度が把握できた。			
今後の改善点	各学年とも基礎的な力につけるために毎時の宿題を実施しているが、時間内に完成できるような工夫をしていきたい。個別ノートの中身について、生徒が答えやすいよう質問の項目を工夫する。			
取組⑦	【区分 保健体育科】	長座体前屈の記録を向上させる運動を導入する。	C	
指標	柔軟運動を継続しておこない、年度末に計測する。			
結果と分析	前屈の柔軟性を高めるために、今までと違う方法で今年度は取り組んだが、年度末の計測結果は4月当初とあまり変わりはない。			
今後の改善点	柔軟性は、すぐに効果が現れないで継続しておこなうが、普段の生活でも柔軟運動を取り入れるように促す。			
取組⑧	【区分 技術家庭科】	視覚的教材の充実に努める。	C	
指標	単元ごとに授業アンケートを行い、生徒の理解を把握する。			
結果と分析	授業に対する意欲の向上にはつながったが、理解度の向上までには至らなかった。			
今後の改善点	視覚教材をもっと活用できるよう、教材の研究に努め、生徒の理解度の向上に努めたい。			
取組⑨	【区分 英語科】	習熟度別授業を通して、きめ細かい指導を行う。	B	
指標	週2回程度は複数教師で授業を行う。			
結果と分析	生徒アンケートの結果、「以前より英語がわかるようになった」と答えた生徒が増えた。			
今後の改善点	アンケートにおける「わかるようになった」という気持ちが、学力の向上に必ずしもつながっていない部分もあるため、よりきめ細かい指導の工夫が必要である。			
取組⑩	【区分 特別支援教育】	個人に応じたユニバーサルデザインを作成し、子どもの実態にそった学習を目指す。	B	
指標	日々の復習プリントや定期テストを実施する。			
結果と分析	発達段階に応じた文字や絵、写真などのカードを用いることでコミュニケーションを取ることができた。学習を楽しみ、学力の定着に繋がった。			
今後の改善点	学習内容がパターン化しないよう工夫したい。			

目標別シート1-2【視点 学力の向上】 教科（国語～音楽）

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかつた

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかつた

年 度 目 標	達成 状況
○平成25年度学校評価アンケートにおける「自分が努力した過程や結果が適切に評価されている。」の「よく」を5%向上させる。(カリキュラム改革関連)	B

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			達成 状況
取組①	【区分 国 語 科】	提出物、作品、小テストの評価も具体化する。	B
指標	評価シートを活用し、生徒の授業に対する満足度・達成度を確認する。		
結果と分析	作品によっては評価に規準が設けにくく、伝えることが困難な場合があった。		
今後の改善点	評価の仕方を更に分かりやすくする工夫が必要である。		
取組②	【区分 社 会 科】	定期テスト以外のプリント、ノート、その他の提出物を評価する。	B
指標	提出の機会を増やし、評価材料を20以上にする。		
結果と分析	各学年とも18～40の小単元や中単元ごとのプリントなどによる提出の機会があった。		
今後の改善点	提出物の量は十分に満たされたがそれが理解につながるよう点検できる工夫が必要である。		
取組③	【区分 数 学 科】	提出物の点検や単元別テストを行い、学習の過程や到達度の振り返りを深める。	B
指標	全単元、一年間を通じて単元別テストを実施する。		
結果と分析	ノートやワーク、宿題の継続的な点検と単元別テストの実施により、振り返りを深めている。		
今後の改善点	より効果的な学習となるよう、単元別テストの時期や内容を検討していく必要がある。		
取組④	【区分 理 科】	生徒が目的意識を持って主体的に観察・実験を行うことができるよう指導する。	B
指標	実験レポートの正しい記述を毎回指導する。		
結果と分析	毎回の実験ごとに提出されたレポートの添削をくり返すことを通して、実験結果を正しく記録し、科学的考察を加えてレポートを書く力が伸長してきた。これは、実験に対する目的意識が向上してきたことによるものと考えられる。		
今後の改善点	目標に準拠した評価を円滑に行い、その基準が生徒にもよりわかりやすいものにするため、毎回の実験レポートなどの評価の観点や基準について改めて検討したい。		
取組⑤	【区分 音 楽 科】	タイトルごとに目標を提示し、それを達成できるようにする。	B
指標	毎回タイトルの目標達成の自己評価の「できた」「ややできた」の割合を60%にする。		
結果と分析	目標達成カードへは毎回「できた」「ややできた」の回答が9割ほどだった。しかし、「ややできた」が多かった。		
今後の改善点	具体的にできた実感をしてもらうために、途中経過での評価もし、それも加味しながら自己評価できるようにカードを改善する。		

目標別シート1-2【視点 学力の向上】 教科（美術～特別支援教育）

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			達成状況	
取組⑥	【区分 美術科】	生徒が一つ一つの作品に対して自己表現の実現ができるよう、作品をすべてファイルにとじ、自己評価表の提出をさせる。		
指標	学期に2回、自己評価表を実施し、作品ごとに記述することで達成度・満足度を確認する。			
結果と分析	作品ごとに取り組み表(説明と感想)を貼り付け提出し、まとめたものを自己評価表に記録することで、作品制作に対する目的意識が向上し、表現する力もついてきた。			
今後の改善点	目標を達成できるよう評価を適正に行い、生徒によりわかりやすい基準を自己評価表に反映させていくたい。			
取組⑦	【区分 保健体育科】	単元ごとの自己評価シートを作成する。	B	
指標	年間を通じて評価の記入を実施する。			
結果と分析	単元への取り組む姿勢や反省など生徒個々の自分に対する評価が伝わった。			
今後の改善点	単元ごとに工夫して書き込みやすい評価シートを作成する。			
取組⑧	【区分 技術家庭科】	作品や実技テストにおいて校内での発表を増やす。	B	
指標	作品に対して、生徒同士の評価も取り入れる。			
結果と分析	意欲的に取り組む生徒が増え、作品の質が高まった。			
今後の改善点	生徒の評価能力の向上と、作品の完成度を高め、生徒が満足できる作品につなげる。			
取組⑨	【区分 英語科】	小テストや課題への取り組みを、複数教師できめ細かく指導する。	B	
指標	継続的に小テストを実施し、週2回程度複数教師で課題の点検を行う。			
結果と分析	定期的・継続的に単語テストやリーディングテストを実施し、ほとんどの生徒たちが意欲的に取り組んだ。しかし、課題の点検が十分にできない時もあった。			
今後の改善点	複数教師で入る授業時に、課題の点検をきめ細かく行う時間を確保し、学習のつまずきに気づけるように努める。			
取組⑩	【区分 特別支援教育】	完成した作品を展示したり、授業の中での成長をその瞬間に伝えるようにしたりする。	B	
指標	連絡帳、各教科からの文章表記を活用する。			
結果と分析	努力や頑張りを褒めることで精神的に落ち着き、学校生活が安定した。可能性が広がり、学習態度に自信がみられた。			
今後の改善点	得意なことだけでなく、苦手な事にも積極的に取り組めるよう指導したい。			

目標別シート2【視点 道徳心・社会性の育成】学校運営

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成状況
○平成25年度学校評価アンケートにおける「学校は、地域のボランティアを活用するなど、外部の人材を活用している。」数値を5%向上させる。(ガバナンス改革関連)	A

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組 【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】 教科学習以外の多様な学びの場を設定し、地域のボランティアの協力を得て、体験による「話」、会得した「技」に学ぶ内容の講座を年間通して企画・運営する。 また、言語活動の取り組みにボランティアを招聘し、図書館活動では、放課後の開館を定着させ、読み聞かせでは、各学年学期に1回の行事を実施する。	A
指標 計画通りに行事が実施でき、年度末の保護者アンケート結果に反映できている。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・学校評価保護者アンケートの外部の人材の活用の項目では、数値が昨年度の58%から74%に上昇し、目標が達成できた。
- ・教科学習以外の多様な学びの場である「学びTAI」は、地域ボランティア25名の協力を得て、体験による「話」、会得した「技」等幅広いジャンルでの講座を実施できた。各講座とも講師の方々の経験に基づいた特色ある講座内容をとおして学ぶことが多かった。生徒の参加については、当初は参加が少なく部活動の協力を得たが、2学期以降は、事前に実施内容を紹介し、それを周知したうえで希望アンケートをとり、部活動等の調整を図って参加しやすい環境を整えたため参加がスムーズであった。
- ・図書館活動については、ボランティアの協力により放課後の開館が定着したにも関わらず、生徒の参加が少なかった。
- ・読み聞かせは、ボランティアの協力により、3年生が1学期に、1年生が2学期に、2年生が3学期に各学級ごとに実施した。ボランティアの交流をとおして事前の打ち合わせができたことから、生徒たちにしっかり聞かせることができた。

今後の改善点

- ・「学びTAI」は、生徒たちにとって多様に学ぶことができ効果的であった。次年度は、教育活動内に全員対象に実施していく。
- ・図書館活動は、テスト前などに開館期間を設け、生徒が課題等を持参して自学自習ができる等図書館が利用しやすい機会を設けていく。
- ・読み聞かせは、次年度も各学年学期に1回実施していく。

目標別シート2【視点 道徳心・社会性の育成】 進路

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成 状況
○平成25年度学校評価アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えている。」の数値を70%に向上させる。(カリキュラム改革関連)	C

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			達成 状況
取組 ①	【区分 キャリア教育の推進】	1年生では、職場訪問、2年生で、職場体験、3年生で、外部指導員による、キャリア体験を実施する。	B
指標		キャリア学習を、各学年ともに予定通り行う。	
取組 ②	【区分 小中一貫した教育の推進】	小学生の中学校授業体験と部活動見学の日を6月末に実施する。	B
指標		授業体験、部活動見学を年1回行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

① 2年生の職場体験、及び事後の発表会、企業家ミュージアムからの講師によるキャリア学習、3年生での外部指導員によるキャリア学習、1年生の職場訪問、及び事後の発表会を実施した。
② 中学校区小学校6年生に、国・数・英・理・技・美の6教科授業体験を、6班編成で行い、その後部活動見学を実施した。これで中学校に対しての抵抗感が、かなり払しょくされた。多くの児童が希望を持って本校入学を目指している。
①、②の取組区分での目標は達成できたが、年度目標の「将来の進路や生き方について考えている。」の70%の数値は、3年生では十分に達成できたものの、1, 2年生において低かった。

今後の改善点
① 次年度以降も、各学年のキャリア教育を系統だって実施していく、子どもたちの興味関心に応えていきたい。
② 小中一貫した教育の推進のため、次年度も同様の取り組みを、その内容を吟味しつつ継続していきたい。
70%の数値が、3年生では十分に達成できたが、1, 2年生において低かったことを踏まえ、次年度には1, 2年生での進路取組内容を工夫して実施し、生徒たちが考える機会を増やす必要がある。

平成25年度 運営に関する計画・自己評価[年度末評価]

目標別シート2 【視点 道徳心・社会性の育成】 道徳

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した
B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが、目標を達成できなかった
D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成 状況
○平成25年度学校評価アンケートにおける「学校のきまりや社会のルールを守っている。」の「よく」を5%向上させる。(マネジメント改革関連)	B

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成 状況
取組	【区分 道徳教育の推進】	学習指導要領内容「主として集団や社会とのかかわりに関すること」のうち、「(1)社会の秩序と規律」、「(2)公徳心、よりよい社会の実現」、「(3)正義、公正・公平」、「(4)集団生活の向上」の内容項目を本年度の重点課題として、これに即した読み物教材を用いた授業を重点的に行う。
指標	読み物教材を用いた道徳授業のうち、上記項目に該当する授業を年間4回以上行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

生徒が規範の意義を理解し、主体的にそれを守る姿勢を養うために、年間の読み物資料を用いた道徳学習のうち、本年度の重点課題を扱った資料を各学年ともに4つ以上用いた。

1年生では、他者との関係の中での自分の行動に責任を持つことを学ぶための資料、2年生では法やきまりの意味とそれらを守ることの意義について学ぶための資料、3年生では法やきまりを守り、自分に課せられた義務を遂行する態度を養うための資料などを扱った道徳授業をおこなってきた。

生徒アンケートの結果では、規範遵守に関する質問項目に対し、プラス傾向の回答が80%を超えている。さらに、学校生活の様子から判断しても、本校生徒の規範意識はけっして低いものではないと考えられる。

今後の改善点

上述のように、本校生徒の規範意識はけっして低いものではなく、むしろ高いと言える。しかしながら、やはりすべての生徒がプラス傾向の回答をできることが望まれる。そのためにも、本校生徒が自分たちの規範意識に対し、互いに自信と誇りをもち、表現することができるようになることを目標とした道徳授業が必要であると考えられる。

今後、読み物資料を中心とした教材の選定や指導方法の工夫、実施時期・実施順などの検討を重ね、次年度の年間指導計画を作成していきたい。

また、規範遵守に関連して、ICT端末の普及に伴うネットリテラシーのより一層の育成も図りたい。

平成25年度 運営に関する計画・自己評価[年度末評価]

目標別シート2 【視点 道徳心・社会性の育成】 生活指導

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成 状況
○平成25年度学校評価アンケートにおける「自分の考え方や意見を自分の言葉で発表している。」の数値を5%向上させる。(カリキュラム改革関連)	B

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			達成 状況
取組	【区分 自主活動の育成】	部活動や委員会・生徒会活動の中で生徒自ら主体的に活動していく機会を増やしていく。	B
指標	年間を通じて各行事を中心に生徒が発表する機会を多くつくる。		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

平成25年度学校評価アンケートにおける「自分の考え方や意見を自分の言葉で発表している。」の質問項目について、半数以上の生徒が「している」と回答しているが5%は達成できなかった。しかし、「よくしている」と回答した生徒は昨年度に比べ、1ポイント増加している。

部活動や委員会・生徒会活動を通じて人前で考え方や意見を発表する機会が増え、堂々と原稿を見ずに話すことが、先輩から引き継がれ生徒も慣れてきていると考えられる。

今後の改善点

年間を通じて各行事を中心に生徒が発表する機会は増え、その質も向上しているが、まだ与えられた場面に限られており、「自ら主体的な自分の言葉」になるにはまだ至っていない。

自主性と自分勝手との区別に注意しながら取組を継続していきたい。

平成25年度 運営に関する計画・自己評価[年度末評価]

目標別シート3 【視点 健康・体力の保持増進】 健康教育（1）

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成状況
○平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「長座体前屈」の記録を、平成24年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)	C

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			達成状況
取組	【区分 体育科 の授業の充実】	長座体前屈の記録を向上させる運動を導入する。	B
指標	柔軟運動を継続しておこない、年度末に計測する。		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

2年生の長座体前屈を全国平均と比べてみると、男子で-0.65cm女子で-3.5cmという結果で、大阪府平均と比べてみると男子で+1.04cm女子で-2.51cmという結果であった。

前屈の柔軟性を高めるために、今までと違う方法で今年度は取り組んだが、年度末の計測の結果は4月当初とあまり変わりはない。1.3年生についても同様の計測結果であった。

今後の改善点

柔軟性は、すぐに効果が表れていないが、このまま継続しておこない、また普段の生活でも日常的に柔軟運動を取り入れよう促す。

目標別シート3 【視点 健康・体力の保持増進】 健康教育（2）

大阪市立大淀中学校

評価基準 A : 目標を上回って達成した
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

B : 目標どおりに達成した
 D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成状況
○平成25年度学校評価アンケートにおける「自分の健康に気をつけている。」の「よく」と答えた数値を5%向上させる。(カリキュラム改革関連)	C

年度目標達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成状況
取組	【区分 健康な生活習慣の充実】 ①健康診断の結果を生徒に熟知させ、健全な生活習慣を身につけるために、事前に資料(BMI指数)などによる指導をおこなう。 ②学校保健委員会が、課題解決に向けた具体的な活動の推進をするため、生徒の発表の充実に取り組む。 ③食に関する知識を身につけるため、技術家庭科(食生活と自立など)と連携し3年間を通じた指導をおこなう。	B
指標	生徒に健康の大切さを学ばせるために、「保健だより」や「食育だより」などの資料を定期的に発行し、健康意識の向上を図る。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 健康診断の結果を、各学期の懇談時に保護者、生徒に早期治療を啓発したり、各学年の集会で指導した。 ② 学校医の協力を得、専門的な立場からの指導を取り入れて、学校保健委員会の教育効果もあがり、よりよい実践につながっている。 ③ 食に関する指導を行う機会があるごとに、技術・家庭科で学習する「6つの基礎食品群」をそれぞれのテーマと関連させるように取り入れた。また、「食育だより」については、その月のテーマ及び学校給食の献立内容に関連する「6つの基礎食品群」を記載した。	

今後の改善点	
① 医療機関での受診が必要な生徒の受診率を今年度より向上させるように努める。 ② 活性化の工夫・事後活動の充実を図るために、生徒・保護者・地域へ発信していきたい。 ③ 食に関する指導については、関連する教科と連携及び「食育つうしん」「食育だより」を活用した指導を行う機会を増やすように努めたい。	